

2024 年 3 月 6 日

オリンパスが販売する AI を搭載した内視鏡画像診断支援プログラム
「EndoBRAIN-EYE」が診療報酬の加算対象に
令和 6 年度診療報酬改定で大腸処置の際に加算

[オリンパス株式会社](#)（以下、オリンパス）は、大腸内視鏡画像を AI が解析し、検査中に医師の検出支援を補助する内視鏡画像診断支援プログラム「[EndoBRAIN-EYE（エンドブレインアイ）](#)」が、6 月より診療報酬の加算対象となることを発表します。

厚生労働省より 3 月 5 日に発表された令和 6 年度診療報酬改定にて K721 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術の注 3 として「病変検出プログラムを用いて実施した場合は、病変検出支援プログラム加算として、60 点を所定点数に加算する」ことが明記されました。

なお、当社の販売する「EndoBRAIN-EYE」の保険医療材料区分は公的保険における診療報酬が加算されない「区分 A1（包括）」の評価を有していましたが、製造販売元であるサイバネットシステム株式会社が、使用実績を踏まえて保険収載後に新規機能区分の該当性について再評価を行う「チャレンジ申請」を実施し、厚生労働省での審議の結果、評価すべき医学的な有用性が示されているとして「区分 C2（新機能・新技術）」としての評価を受けています。

診療報酬加算の適用により、大腸内視鏡診断支援 AI の導入の加速と、大腸癌・ポリープの早期発見に寄与します。

「EndoBRAIN-EYE」は、昭和大学横浜市北部病院、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学、サイバネットシステム株式会社により、AMED^{※1}の支援のもと研究開発されました。臨床性能試験を経て、サイバネットシステム株式会社が 2020 年 1 月 24 日に医薬品医療機器等法の製造販売承認を本邦初の病変検出用内視鏡画像診断支援プログラムとして取得し、オリンパスはサイバネットシステム株式会社から国内における独占販売権を取得しました。当社製の大腸内視鏡画像を AI が解析し、検査中にリアルタイムでポリープなどの大腸病変などを高精度^{※2}に検出することで医師をサポートします。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

※1 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

※2 臨床性能試験による結果（感度 96%、特異度 98%）

オリンパスについて

オリンパスは「私たちの存在意義」として掲げる、世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を目指しています。世界をリードするメドテックカンパニーとして、私たちは医療従事者の方々と共に、病変の早期発見、診断、そして低侵襲治

療に役立つ最適なソリューション・サービスの提供を通じて対象疾患における医療水準の向上に貢献してまいります。
創業から100余年、オリンパスはこれからも世界中のお客様に最適な価値をもたらす製品を提供することで、社会への貢献を目指します。詳しくはオリンパスの公式サイト（www.olympus.co.jp）ならびにX（[@Olympus_Corp_JP](https://twitter.com/Olympus_Corp_JP)）をご覧ください。



＜本件に関するお問い合わせ先＞

- 報道関係の方：オリンパス株式会社 コミュニケーションズ 上江
TEL：070-2629-2739 メールアドレス：Global-Public_Relations@olympus.com
- ホームページ：<http://www.olympus.co.jp>